

TAMA映画祭は
今年で20周年!!

TAMA 20

2010

07/24

第4回特別上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」

(2010/ドキュメンタリー/135分) 監督:鎌仲ひとみ 配給:グループ現代
公式ホームページ <http://888earth.net/>



問われるのは、私たち自身
——持続可能な社会を築くカギは地域の自立!?

『ミツバチの羽音と地球の回転』が発するエネルギー、みなさんはどう受け取るだろうか。怒りとみるか、提言とみるか、生活の切実な問題か、あるいは遠い北欧のおとぎ話か——。それらは、実はすべてつながっている、と思う。理想と現実を考えたとき、日本の現状は硬直していて、課題山積で、何から手をつけたらいいかわからないくらいなのだから。それでも、怒りや夢をみることは、私たちが行動を起こすときのエネルギーとなる。

この作品を観て、いろいろと想像力をかきたてられた。そのひとつに、グローバルに対するローカル。いや、グローバルな時代だからこそ、地域社会のあり方に目が向くのだということがあった。とくに、地域社会の成熟とは、拡大志向から持続可能性の追求へとモデル転換を図るということなのではないかと。

祝島の人たちの「島を守りたい」という想いは、世界でも稀で豊かな自然との共生のなかからうまれてきたものだ。また、島とその近海でとれる農産物・海産物は、質の高いものとして評価されている。祝島そのものがブランドであり、「ここで暮らし続ける」という誇りと決意が、28年間の上関原発建設反対を支えているのではないだろうか。

では、地域の自立を阻んでいるものは何か。都市生活を営む私たちの想像力とこれからが問われている。そのひとつは、私たちの何気ない暮らしが、どこかの誰かの負担によって成り立っているという責任を感じることだ。無意識でいたら、未来を破壊することにもつながりかねないこともある。

「エネルギー政策」といっても、遠いところのもののように感じる。でも、それについて現状を知り、どうするべきかを考えなければいけないような気がした。「自由化」「規制改革」「イノベーション」などの言葉が盛んに語られるこの国で、電力インフラ、電力供給サービスについては、ほとんど手がついていない、なぜだろう？ 電気を選べる、それは悪いことではないはずなのに、いったいなぜ？

スウェーデンの自治体のように、住民自身、私たちが具体的に議論し選択すれば、エネルギーのあり方に一石を投じることができるかもしれない。持続可能な地域社会のあり方について話し合いが始まれば、電気を選ばせてもらえない、ほぼ独占状態を打破するチカラやきっかけになるのではないだろうか。そういう期待をこめて、みなさんとこの作品を共有したいと思った。

山口渉(実行委員)

TCF 2010
0724

LINE UP

第4回特別上映会
「ミツバチの羽音と地球の回転」

第5回特別上映会情報
速報 上映作品決定!

「ただいま～それぞれの居場所～」

TCF実行委員による
映画レビュー

独断と偏見で語ります!

お知らせ

第5回特別上映会



8月28日(土)

ベルブホール
多摩市立永山公民館ベルブ永山5F



文部科学省特別選定 (青年・成人向け)

©大宮映像製作所

「ただいま ~それぞれの居場所~」

2010/日本/96分/ドキュメンタリー
公式ホームページ <http://www.tadaima2010.com/>

2000年4月1日の介護保険制度開始以降、介護サービスの数は急激に増えました。

しかしその一方で、介護を必要としながらも、制度の枠組みから漏れてしまう人々も多くいる現状があります。そうした中、現在の画一的な介護サービスの在り方にジレンマを感じ、自ら理想とする介護を実現させようと施設・事業所を立ち上げた人たちがいます。ドキュメンタリー映画「ただいま それぞれの居場所」では、設立から23年になる民間福祉施設と、新たに、若者によって設立された三つの施設を取材。人手不足や低賃金などの問題ばかり取り上げられがちな介護の現場ですが、映画は、利用者やその家族と深くかかわることを望み、日夜奮闘する施設のスタッフたちの姿を映しだしていきます。いくつもの人生の最後の季節、生と死の間に向き合い続ける日々。そして制度とシステム、医療と介護、家族と社会。その狭間をさまよい続け、ようやく見つけたそれぞれの居場所。そこにはきっと、大切な誰かと、ともに生きるためのヒントがあるはずです。

声高ではなく、淡々と映し出されていく日常の迫力さに、私たちは身震いし、人間の素晴らしさに心をうたれます。誰も避けられない道をしっかりと見据えるためにも多くの人達に見てもらいたい映画です。

Time Table

- ① 11:00~
- ★ 12:36~ 大宮浩一監督トーク
- ② 13:50~
- ③ 16:00~
- ④ 18:00~

*全席自由・各回入替制・
15分前会場
*大宮監督トークは
チケット(半券含)で入場可

前売 大人:1000円
当日 大人:1200円 こども:500円
(大人は13歳以上、こどもは
4~12歳・当日券のみ)

オススメ映画レビュー

TCP実行委員の
オススメ映画を
紹介します。

『パーマメント野ばら』

吉田大八監督

2010/日本/100分

高知の女性たちを表す言葉の「はちきん」。その諸説ある語源のひとつが「男のキン〇マを8こ食い破る」だとか。高知の田舎のパーマ屋さん「野ばら」に集まるのはそんなはちきんばかり。そのはちきんたちの自慢話や愚痴、ボヤキなどさまざまな話を、娘をつれて出戻ったなおこは受け止めます。けれど、なおこの抱えるある「事」を、実ははちきんたちが大らかに、優しく、繊細に、さりげなく受け止めているのであります…。

映画での主演は実に8年ぶりという、なおこを演ずる菅野美穂さんの「黙って受け止める」演技も見事。また、高知とは言ってもどこでロケを?とエンドロールを見るとなんと宿毛(すくも)!! 大月町や四万十市、土佐清水市でもロケが行われたようですが、高知の西の端っこの宿毛の街の、潮風や湿度、潮のニオイや暑さまでもが、はちきんたちとなおこを包んでくれているようなこの作品はやっぱり大きなスクリーンで見て正解でした。

豪快に聞こえることが多いと思われる土佐弁も、この作品ではちょっとかわいげやいじらしさが感じられるかも知れません。

〈越智〉

17世紀のフランスを代表する喜劇作家の、伝記上空白とされている数ヶ月を描いているだるうフィクション。

作品紹介によると、ロマンティックコメディーとなっておりますが、コメディはコメディでもアメリカの映画とは少し違った質の笑いが楽しめる映画。人間の愚かさを皮肉いっぱいに言いまわすセリフに、笑い。個性が強すぎる登場人物達に、思わず笑い。最後に、素敵な恋愛にホロリとする。

笑いの中に人間の本質を見出すというモリエールの人生が、松本人志を神とあがめる関西人としては共感できる作品でした。

なにはともあれ、クスリと笑いホロリと泣けてしまう一石二鳥の作品なので是非ご覧下さい!実際にモリエールの作品を読まれてから鑑賞されると、また一つ違った趣のある映画ではないかと思えます。

〈丸山〉

『モリエール恋こそ喜劇』

ローラン・ティラール監督

2007/フランス/120分

1999年に起きた、コロンバイン高校の銃乱射事件を題材にした映画。

事件の起きた高校の生徒たちをモデルとして、若者の日常、そして事件へ至るまでが描かれる。淡々と若者の日常を描いているように見えて、実はしっかりした構成がされています。派手な銃撃の映像があるわけでもないのに、武装した生徒二人が学校に乗り込んでからの緊張感はあるものがあります。

同事件を取り上げた映画というと『ボウリング・フォー・コロンバイン』が有名ですが、銃問題に比重が寄っているくらいがありました。今作品は銃だけでなく、いじめ、ゲームなど、犯人の生徒たちの周辺にあったであろうものを、どれが犯行の原因と断定することなく公平に扱っています。

声高にメッセージを叫んでいる作品ではありません。しかしこれを観ると、犯人の生徒たちの気持ちは素直に理解できる気がします。彼らのおかれた状況は、日本に暮らしている私たちが学校や社会で身近に感じたことがあるだろうからです。カンヌ国際映画祭で、パルムドールと監督賞を受賞しました。この映画に感じるところがあったら、『コロンバイン・ハイスクール・ダイアリー』という本もおすすめです。生徒たちについて、さらに掘り下げた内容です。

〈伊藤〉

『闇の列車、光の旅』

ケイリー・ジョージ・フクナガ監督

2009/アメリカ・メキシコ/90分

入れ墨や独自のハンドサインで忠誠心を誓い合い、中米を中心に勢力を広げるギャング組織。その組織を裏切り、追われる身となったメキシコの少年。一方、貧困から逃れるため、ホンジュラスから家族とともにアメリカを目指す少女。同じ列車の屋根の上に乗る合わせた二人は、追っ手と国境警備員をかわしながら中南米を北上して行く。

血と暴力から始まる映画だが、移民希望者を屋根に満載した列車が、闇の中、雨の中、朝日の中、アメリカへ向かって走り続ける、その映像はゾクゾクするほど美しい。

原題の「名無し」とは、中南米からアメリカへ不法入国を試みる人たち、そして、その途中で命を落とし、「名前のない」存在としてこの世から消えていく人たちのこと。でもこの作品は、その状況が絶望だけに支配されているわけではないことも見せてくれる。国境を越えようとするのも、ギャングのメンバーになるのも、突き詰めれば生き延びるため。生き延びるために生死を賭けた彼らにとって、一本のペットボトルの水、一個のオレンジ、一軒の電話番号、一瞬の笑顔が命をつなぐ糧になる。日々ちりばめられた微かな希望を頼りに人は生きている、それを印象的に見せてくれる映画だ。

〈三橋〉

『エレファント』

ガス・ヴァン・サント監督監督

2003/アメリカ/81分

次ページへ
続く!!

『オーケストラ!』

ラデュ・ミヘイリアニユ監督
2009/フランス/124分

あの『イングリッド・バスターズ』のメラニー・ロランです。ブレジネフ時代のソ連から始まり現在のロシアが舞台です。ポリショイ交響楽団から多くのユダヤ人が連行され、絡めて、指揮者のアンドレイも解雇される。劇場の掃除人となって30年。1通のFAXからバリ・シヤトレ座の奇跡のコンサートへとつながっていく。原題は「コンサート」です。30年間のブランクがある団員の召集。メラニー・ロランの出生の秘密。特にアンドレイを演じた張本人のKGB職員との絡み(これは必見)等エンターテイメントとしても一級です。キーワードはチャイコフスキー。楽団員の今が、とても明るくて、悲しくて。舞台がバリに移ってからが本番です。アンドレイとメラニーのシリアスに対しての楽団員のでたらめさ、笑えます。ラストへの序曲。

今年は『ナイン』『のだめ…』『THIS IS IT』等目立つ音楽映画が多くあり、【映画は劇場で】という原点を見直させる意味では、実りある年でした(ってまだ終わってない)。ラストのコンサートは本当に心が震えます。是非是非、劇場で(できれば音響の整った)見てください。『プラス』で感動した人、又涙を流してください。
(竹内)

1966年に起きた「袴田事件」をもとに、『禅』の高橋伴明監督が主演に萩原聖人、新井浩文を迎えて描く社会派ドラマ。

一家4人の強盗放火殺人の容疑で逮捕された袴田巖は、警察による過酷な取調べにより自白を強要され、十分な証拠や動機もないまま有罪となり、死刑宣告を受ける。彼の無実を確信しながらも死刑宣告をしなければならなかった裁判官、そして冤罪によって人生を奪われ、監獄の中で死の恐怖と闘い続ける死刑囚の苦悩の日々を通して、人が人を裁くということの難しさを描いた作品。

袴田巖を演じる新井浩文の迫真の演技が素晴らしく、冤罪によって失われるものの重みが胸にずしっと響く。73歳となった現在も、牢獄の中にいる袴田死刑囚を想うと、悲しく、腹立たしく、やり切れない。あまりの悲痛に目を背けたくなるかもしれない。それでも、私たちはこの現実をしっかりと見つめ、受け止めなければならない
(新座)

『BOX袴田事件 命とは』

高橋伴明監督
2010/日本/117分

『祝の島』

ほろり
瀬藤あや監督
2010/日本/105分

原子力発電所の建設計画問題にゆれる山口県祝島(いわいしま)の島民たちを撮ったドキュメンタリー映画です。

監督の瀬藤あや氏は今作が初監督作品。監督は祝島に魅了され、数年間にわたって何度も何度も足繁く通ったそうです。登場する島のお年寄りたちはみんなパワフルで、過疎化が進む祝島ですが、こんなお年寄りたちのおかげで賑やかな印象を受けました。そして瀬戸内海に浮かぶ離島が舞台ということで、豊かな海の映像が盛りだくさん! 透き通るように真っ青な海、夕日によってオレンジ色に光り輝く海。そこにはタイやウニなど豊かな自然の恵みがあります。豊かな海の恩恵を受けて育ってきた島の人は、祖先から受け継いだこの海を後世に残すために、原発計画が持ち上がって以来28年間抗議活動を続けています。この島の人の海への思いや姿に私は心を打たれホロリと泣いてしまいました。

原発の問題は大変複雑で様々な意見や考えがあると思いますが、環境と暮らしについて大変考えさせられる映画です。この機会に一度じっくり考えてみるのもいいかもしれません。
(武井)

お知らせ

INFORMATION

今年の映画祭は11月20日(土)から
28日(日)までの開催予定です!

現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと企画案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第2回目を迎える日本で一番早い(!?)TAMA映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに!

また、第11回を迎えるTAMA NEW WAVE も作品募集中です。こちらもご期待下さい。

支援会員制度のお願い

実行委員やシネマ隊として参加するのは難しいけど
TAMA映画フォーラムを応援したい

そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願い致します。

支援金寄付▶個人会員:一口1000円

ご協力いただいた方は、映画祭パンフレットの贈呈などの特典もございます。

●郵便振替番号 00160-5-541123

●加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

発行

TAMA映画フォーラム実行委員会

〒206-0025東京都多摩市永山1-5 (ベルブ永山) 多摩市立永山公民館内

TEL▶080-5450-7204 (直通) FAX▶042-337-6003

042-337-6661

MAIL▶info@tamaeiga.org

ブログやTCFの最新情報はコチラ!

<http://www.tamaeiga.org/>

